

(続紙 1)

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	相原 進
論文題目	エチオピアにおける伝統的ダンスの継承と新たな表現の創造		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は現代アフリカにおける伝統的ダンスの継承と新たな表現の創造について、エチオピア国立劇場(Ethiopian National Theater)という場を通じて実践される表現活動に焦点をあててその特徴を描きだし、現代的な意義を明らかにしている。</p> <p>エチオピアでは、帝政時代から国の文化的な政策の一環として国内各地の各民族のダンスを記録し、上演することがおこなわれており、その事業は二つの全く異なる政体を越えて継続してきた。1991年にはじまる現政権のもとでは、従来のアムハラ民族のダンスを中心にした事業から、少数民族のダンスの記録と上演にも力をいれるようになってきている。本来、伝統的ダンスは、定式化される側面と、文脈に応じて踊り手が多様な表現を創造する両方の性質を兼ね備えている。本論文は、近年、首都アジスアベバを中心にレストランやホテルで観客にむけて演じられるダンスについてもとりあげている。</p> <p>第1章では、エチオピアの伝統的ダンスおよび芸能についての先行研究を批判的に検討し、ダンスの表現とダンスがおこなわれる場と踊り手の構成する社会集団に着目するという本論文の視座を示している。また、日本芸能の「型」において用いられるフォームとスタイルという分析概念をエチオピアの伝統的ダンスの分析に応用する可能性についても論じている。</p> <p>第2章では、国立劇場の伝統的ダンスを演じる組織の構成とそれぞれの部門の活動を示し、個々の演目が創作される過程や演出プログラムの組み立て方の概要を示した。演目の創作には、民族・地域ごとに演目を立てることと、踊り手たちのあいだに共有されている基本的な動作の組み合わせによっておこなうという2つの特徴があることをダンスの動作の詳細な記述によって明らかにしている。</p> <p>第3章では、上記の2つの特徴がエチオピア国立劇場の中だけでなく、アジスアベバにおいて伝統的ダンスを見せる場においても共通している背景について、エチオピアにおけるダンス教育の歴史と関連づけて明らかにしている。特に、ハンガリー人のダンス研究者ティボール・ヴァダシィが1969年から4年間実施した講義について、文献および受講者への聞き取り調査をつうじてその内容を記述し、ヴァダシィの始めた教育方法が現在のエチオピアにおける伝統的ダンス教育に受け継がれており、いまなお大きな影響を与えていることを明らかにしている。</p> <p>第4章は、現在国立劇場に所属する踊り手たちのこれまでのダンス経歴を示して、第3章で明らかにしたダンス創作の特徴とその歴史的経緯と関連させながら、彼らがダン</p>			

スを職業として目指す場合に、どのようにして技術を習得し、演目を創作する方法を学んでいくのかについて明らかにしている。

第5章は、2018年の国立劇場の新年公演で演じられた新演目「シダマ」の創作の過程に着目している。新演目の創作にあたっては、踊り手だけでなく楽器の演奏者、調査部門の職員、演出家など国立劇場に所属するさまざまな人びとがかかわる。その過程にかかわる人びとの実践を追い、踊り手どうしのやり取りを描写することによって、新演目が創作されていく過程を示している。

第6章では、アジスアベバ市内で観光客などを相手にホテルやレストランで演じられるダンスに着目し、国立劇場とは異なる方針で演出がおこなわれている様子を記述している。国立劇場では、エチオピア国内の諸民族が継承してきた伝統的ダンスについて調査部門が記録した資料をもとに演目を創作し、披露しているのに対して、レストランなどでは、個々の民族に特徴的なダンスや衣装を踏まえつつ、観客の反応を伺いながら、観客を楽しませるために表現に手を加えることが求められることを見出している。レストランのダンサーや番組の制作者たちの実践を手がかりに、観光化にともなって表現の多様化がすすんでいる実態を明らかにしている。

第7章では、第6章までに明らかにした事実とその考察をふまえて、アジスアベバにおけるダンス表現の多様性が生じる様態について論じている。ここではダンス表現の多様性を、演目、基本的な動作、そして基本的な動作の組み合わせ、の3点に類別し考察している。演目の多様性については、2018年に国立劇場で創作された新演目「アリ」が、アジスアベバのレストランに伝播していく過程を例に論じている。基本的な動作の多様性については、個々の踊り手の表現が、ダンスが演じられる場によって変わることに注目し、その差異を聞き取り調査と映像によるモーション・キャプチャの分析によって明らかにしている。基本的な動作の組み合わせに多様性が生じる事例については、近年アジスアベバ市内のレストランにおいて活動するアイドルグループのダンス実践をとりあげて考察している。

終章では、エチオピアの国立劇場を中心に創造されてきたダンスについて特徴的な「基本動作」の概念と、エチオピア独自のフォームとスタイルという概念の対応と適合性について論じ、両者の関係性が、新たな表現が創造される源泉となっていると結論している。

(論文審査の結果の要旨)

伝統文化の保全と継承の問題は、地球社会においてグローバル化による急速な社会文化変容が進行していくなかで喫緊の課題として注目されてきた。アフリカもその例外ではない。なかでも伝統舞踊（ダンス）のような無形文化財としての芸能を対象に、文化の継承や保存を論じる場合、その文化事象の何が具体的に継承され保存されるべきなのかについては議論の分かれるところである。本論文は、現代アフリカにおける伝統的ダンスを対象に、その継承と保存を目的とした国家組織（エチオピア国立劇場）による事業を研究対象として長期の参与観察をおこない、組織の枠を超えて実践されるダンスの練習法とその継承の実態を詳述した。さらにその場でダンス表現の「創造」がおこなわれている様態を見出し、実証的に描き出した。

本論文の学術的な貢献は以下の4点にある。

第1に、ダンス研究の方法論として、エチオピア国立劇場で保存されてきた22の民族集団による26演目のダンスを対象とした実践的研究をおこない、基本動作という分析概念を用いて、262種類の異なる動作を見出し記述したことは、本論文の骨子となる貴重な貢献である。基本動作の記述は、映像の記録とモーション・キャプチャによる分析によって再現性の高いものとなっている。

第2に、エチオピア国立劇場の組織的な活動の仕組みを明示した上で、その場で伝統的ダンスが帝政時代から3つの政体を越えて引き継がれてきた実態とその歴史的変遷を明らかにしたことは、国家による文化介入装置としてとらえられてきた国立劇場の機能に対する理解の幅を広げた。同時に、エチオピアにおいて現在共有されているダンス教育と研究方法の起源を発見したことも特筆すべき学術的貢献である。

第3に、モーション・キャプチャによるダンス動作の差異の記述をおこない、創造の様態を演目、基本的な動作、そして基本的な動作の組み合わせという3つの視点から記述したことは従来の伝統的ダンスの研究にはみられなかった新しいアプローチとその成果である。ダンスにおける身体の動きを細分化して機械的に記述理解するだけでなく、その一連の連続した身体動作によって成立する実践としてとらえつつ、踊り手や演目による差異と多様性が存在することを見出した点は、他の地域における伝統的ダンス研究においても比較の方法と視点を提供するものと期待できる。

第4に、実証的なダンス動作の記述と分析をふまえたうえで、日本の伝統芸能において源了圓の提唱する「型」とそのなかのフォームとスタイルという概念に関連づけて、エチオピア国立劇場やアジスアベバ市内のレストランで演じられるダンスにおいて特徴的に見出される創造の機序を解明したことは高く評価できる。

本論文は、現在のアフリカにおいておこなわれる有形無形の文化財の保存と継承の様々な実践のなかで、エチオピア国立劇場の活動に的を絞ってとりあげたという制約はあるも

この、アフリカ伝統的ダンスの研究について敷衍できる方法論と分析の視座を提起した点においてその価値は非常に高い。エチオピアという独自の文化を誇る地域の伝統的ダンスにおいて、定型的な実践が不変のものとして保持されているのではなく、動的な保存と継承がおこなわれている有様を活写し、その機構を解明したことは地域研究の優れた成果と評価できる。

よって、本論文は博士（地域研究）の学位論文として価値あるものと認める。また、2020年1月21日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。

なお、本論文は、京都大学学位規程第14条第2項に該当するものと判断し、公表に際しては、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものとすることを認める。